

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第85期中間期（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

上期における当社グループを取り巻く事業環境につきましては、株価上昇や円安など緩やかな回復基調となる一方で、新興国経済の減速、東南アジア諸国の通貨不安懸念など先行きが見通しにくい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは本年4月にスタートした中期事業計画（2013-2015）に掲げた目標の達成に向け、レアアースなどの高価な金属材料のみならず、全製品にわたる材料組成・構成の大幅な技術革新によるコストダウンとともに、更なる品質の向上を図りました。また全製品分野における生産効率向上、リードタイム短縮に努めたことによる在庫削減、外部流出費用などの固定費削減も実行することにより損益分岐点を引き下げるとともに資金効率を向上させることができました。この結果、前年度第3四半期から本年度第2四半期まで4四半期連続して営業・経常・純利益において黒字を継続することができました。

また財務面においては、将来コストの削減と長期に安定的な退職給付制度の運営体制を確立すべく、退職金・年金制度の改定を実施いたしました。

上期の当社グループ全体の売上高につきましては、前年同期に比べ41億98百万円増の393億8百万円となりました。損益面につきましても、各施策の遂行により営業利益は前年同期に比べ26億75百万円改善し10億49百万円、中間純利益は退職金・年金制度の改定に伴う特別損失3億4百万円を計上しましたが、前年同期に比べ20億50百万円改善の4億84百万円となりました。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

下期以降につきましては円安による原材料価格のみならず、エネルギーコストの高騰も懸念され、不透明な状況が続くものと予想されますが、引き続き事業構造強化の各施策に取り組むとともに、拡大・成長戦略として、車載・スマートグリッドなどの将来成長が期待される市場への積極的な新製品投入ならびに各種アライアンスを推し進めるなど、柔軟に対処してまいる所存です。

今後とも引き続きFDKグループをご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成25年12月



代表取締役社長 望月通正